愛媛大学外科
専門研修プログラム

愛媛大学
EHIME UNIVERSITY

Ver. 8 2023.05.01

EHIME UNIVERSITY HOSPITAL

目次　　頁

1. はじめに　3
2. 愛媛大学外科専門研修プログラムの理念・使命・成果　4
3. 愛媛大学外科専門研修プログラムの特徴　4-5
4. 専門知識/技能の習得計画
　研修医が習得すべき知識・技能　5
　基幹施設の週間スケジュール　5-6
　学習機会について　7
5. リサーチマインドの養成および学術活動に関する研修計画
　習得すべき学問的姿勢　8
　実施すべき学術活動　8
　研修計画　8-9
6. 外科専門医に必要なコアコンピテンシーの研修計画　9
7. 地域医療に関する研修計画
　施設群による研修　10
　地域医療の経験　10
　研修の指導体制と指導の質の保証　10
8. 専攻医研修ローテーション（モデル）
　愛媛大学外科専門研修プログラムモデル　10-11
　年次毎の専門研修計画　11-12
9. 専攻医の評価時期と方法
　研修途中の評価時期と方法　12
　研修の修了判定について　13
10. 専門研修監理委員会の運営計画　13
11. 専門研修指導医の研修計画　13
12. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）　14
13. 専門研修プログラムの改善方法
　専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価　14
　専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス　14
　研修に対する監査（サイドビジット等）・調査への対応　14
巻末資料：愛媛大学外科専門研修プログラムの施設群

1. はじめに

愛媛大学外科専門研修プログラム統括責任者
愛媛大学肝胆膵・乳腺外科教授
高田泰次

2018 年度から始まった新しい専門医制度では，これまで学会ごとに認定されていた制度を標準化するため，第三者機関として「日本専門医機構」が認定・更新を行う制度へ変わることとなりました．その目的は 3 年以上の研修期間において適切な教育を受け，十分な知識と経験を兼ね備え，患者さんからも信頼される標準的かつ質の高い医療を提供できる専門医を育成することにあります．

愛媛大学外科専門研修プログラムは，最先端の外科治療と研究・教育を担う愛媛大学医学部附属病院が基幹施設となり，同様に先進的・高度な外科治療を行う県中核病院，救急も含めた手術症例の豊富な地域中核病院，様々な疾患を経験できる地方拠点病院などをローテーションし，外科診療に必要な専門知識と技能を効率よく習得し幅広い診療実績を積むことができるカリキュラムを準備しています．また希望に応じ，将来のサブスペシャリティーと連動したコースや腫瘍外科医育成コースなど多様な選択肢も可能です．さらに，カンファレンスや学会での発表，論文作成の指導を通じて科学的な思考能力を養うことにも力を入れています．専攻医 1 人 1 人をきめ細かに指導し 3 年間の専攻期間中に到達・経験目標を必ず達成できるように配慮し，そして将来のキャリアプランも含めて全人的な支援を行い優秀な外科医を育てていくためのプログラムとなっています．プロフェッショナルとしての外科医への道をわれわれとともに歩み始めましょう．

2. 愛媛大学外科専門研修プログラムの理念・使命・成果

理念：外科専門医とは，医の倫理を体得し，一定の修練を経て，診断，手術適応判断，手術および術前後の管理・処置，合併症対策など，一般外科医療に関する標準的な知識とスキルを修得し，プロフェッショナルとしての態度を身に付け，地域医療を担うことのできる医師のことです．外科専門医は，規定の手術手技を経験し，一定の資格認定試験を経て認定されます．この専門医の維持と更新には，最新の知識・テクニック・スキルを継続して学習し，安全かつ信頼される医療を実施していることが必須条件となります．また，外科専門医はサブスペシャルティ領域(消化器外科，心臓血管外科，呼吸器外科，小児外科，乳腺外科，内分泌外科)やそれに準じた外科関連領域の専門医取得に必要な基盤となる共通の資格でもあります．

使命：外科専門医の使命は，標準的かつ包括的な外科医療を提供することにより，地域医療を支え国民の健康・福祉に貢献することです．また，外科領域診療に関わる最新の知識・テクニック・スキルを習得し，実践できる能力を養いつつ，この領域の学問的発展に貢献することです．

成果：専攻医は本プログラムにより，以下の 6 項目を修了することができます．

1) 外科領域のあらゆる分野の知識とスキルを習得する．
2) 外科領域の臨床的判断と問題解決を主体的に行うことができる．
3) 診断から手術を含めた治療戦略の策定，術後管理，合併症対策まですべての外科診療に関するマネージメントができる．
4) 医の倫理に配慮し，外科診療を行う上での適切な態度と習慣を身に付けている．
5) 外科学の進歩に合わせた生涯学習を行うための方略を修得している．
6) 外科学の進歩に寄与する研究を実践するための基盤を取得している．

3. 愛媛大学外科専門研修プログラムの特徴

愛媛大学外科専門プログラムは，愛媛大学病院を中心として愛媛県内のほぼすべての中核病院で研修が可能なプログラムになっています．1 年目は愛媛大学病院外科を中心として研修を行い，2 年目以降には，愛媛大学病院や東中南予の連携施設で救急・一般外科領域を研修します．3 年目以降になると，大学病院を含め連携施設において，消化管・肝胆膵外科，心臓血管外科，呼吸器外科，小児外科，乳腺外科などのサブスペシャルティ領域の研修が可能なプログラムです．愛媛県内の様々な地域で研修し，地域の実情に即した幅の広い視野を身につけることは，その後の外科医としてのキャリアに大いに役立つと考えられます．専門研修が修了した後には，引き続き大学病院や連携施設

のスタッフとして診療に従事したり，大学院での研究，海外の施設への短期・長期留学などへ進むことができます.

本プログラムでは，愛媛大学病院と連携施設（25 施設）により専門研修施設群を構成します． 本専門研修施設群の 2021 年 NCD 登録数は 5,282 例，3 年間の NCD 登録数は 15,846 例で，専門研修指導医は 74名のため，2024 年度の募集専攻医数は 9 名です.

4. 専門知識/技能の習得計画

専攻医が習得すべき知識・技能

専攻医研修マニュアルの到達目標 1 （専門知識），到達目標 2（専門技能），経験目標 1（外科診療に必要な疾患の経験と理解），経験目標 2（手術・処置）を参照下さい.

基幹施設の週間スケジュール

愛媛大学医学部には，消化管・腫瘍外科学，肝胆膵・乳腺外科学，心臓血管・呼吸器外科学の 3 講座があります．愛媛大学病院でこれら 3 講座は，消化管・腫瘍外科学は，消化器外科と小児外科を，肝胆膵・乳腺外科は，肝臓・胆のう・膵臓・移植外科と乳腺外科を，心臓血管・呼吸器外科は，同名の診療科を担当します．したがって，それぞれの診療科において週間スケジュールがあります.

【消化器外科，小児外科】

		月	火	水	木	金
7:45-8:30	朝回診					
7:30-8:45	カンファレンス・朝回診					
7:45-9:00	カンファレンス・朝回診					
8:30-	手術					
8:30-12:00	手術					
8:30-12:30	午前外来					
13:30-16:00	午後外来					
16:00-17:00	夕回診（水曜日は回診後に抄読会）					
17:00-18:00	消化器内科外科合同カンファレンス（隔週）					
18:00-19:00	外科 3 科合同カンファレンス(月 1 回)					

【肝臓・胆のう・膵臓・移植外科，乳腺外科】

		月	火	水	木	金
7:30（8:00）-	カンファレンス					
-9:00	朝回診					
8:00-	抄読会（肝胆膵　水曜, 乳腺　木曜）					
8:30-	手術					
12:00-	手術					
9:00-	外来（肝胆膵）					
9:00-	外来（乳腺）					
17:00-	夕回診					
18:00-19:00	消化器内科・外科・放射線科・病理 合同カンファレンス（隔週）					
18:00 -	乳腺病理カンファレンス（月 1 回） 遺伝性腫瘍カンファレンス(月 1 回) 乳房再建カンファレンス（隔月）					
18:00 -	乳腺治療カンファレンス（月 1 回）					
18:00-19:00	外科 3 科合同カンファレンス(月 1 回)					

【心臓血管外科，呼吸器外科】

		月	火	水	木	金
7:45-	カンファレンス					
-8:30	朝回診					
8:30-	手術					
9:00-	外来					
16:45-	術前カンファレンス					
	夕回診					
18:00-19:00	外科 3 科合同カンファレンス(月 1 回)					

学習機会について

【定期開催】

- 外科３科合同カンファレンス：月に１回開催します．ここでは，研修プログラムの一環として，各診療科が持ち回りで専攻医を対象とした講義を担当し，学習の機会としています．
- 勉強会/抄読会：基幹施設および連携施設において，勉強会や抄読会を開催するなど，定期的な学習機会を設けています．
- 症例検討会：基幹施設および連携施設において，手術症例・治療困難例などは，重点的に症例検討を行います．
- 関連診療科との合同カンファレンス：内科・放射線科・病理部などと合同で，術前・術後の症例検討を行っています．ここでは，治療方針の検討や術前画像診断と切除検体の病理診断を対比し，より正確な術前診断へのフィードバックを行うなど，極めて有意義な学習機会となります．

【不定期開催】

- 医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会：治療困難症例，長期入院症例などを対象に検討会が行われることがあります．専攻医は積極的に意見を述べ，同僚の意見を聴くことにより，具体的な治療と管理の論理を学びます．
- Cancer Board：複数の臓器に広がる進行・再発例，重症の内科合併症を有する症例，あるいは非常に稀で標準治療がない症例などのがん患者の治療方針について，内科など関連診療科，病理部，放射線科，緩和，看護スタッフなどと合同カンファレンスを行います．

【臨床現場を離れた学習】

- 学会活動：全国学会，地方学会，研究会等への参加および発表を推奨し，そのために必要なスキルを習得できるようサポートします．
- 低侵襲手術トレーニング施設・手術手技研修センター：愛媛大学病院は，大型動物によるトレーニング施設を有しており，生体ブタなどを用いて手術手技研修ができます，また，愛媛大学医学部は，手術手技に関連する臨床解剖の理解を深め，鏡視下手術手技や，開胸・開腹手術の手術技術を習得するためにCadaver（ご遺体）を用いた手術手技研修を行っています．専攻医は，専門研修指導医らと共にこれらの施設やセンターを利用することができます．

【自己学習】

- 基幹施設である愛媛大学病院では，機関契約により，医中誌およびPubMedでの文献検索及び文献のダウンロード（一部有料）が可能です．
- 日本外科学会が作成しているビデオライブラリーや日本消化器外科学会が用意している教育講座（e-ラーニング），その他，各種研修セミナーや各病院内で実施される講習会などで，標準的医療および今後期待される先進的医療などについて学びます．

5. リサーチマインドの養成および学術活動に関する研修計画

習得すべき学問的姿勢

専攻医は，医学・医療の進歩に遅れることなく，常に研鑽・自己学習しなければなりません．患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し，今日のエビデンスで解決できない問題は，例えば，臨床研究に自ら参加もしくは企画する事で解決しようとするといった姿勢を身につけることが求められます．そのための到達目標として，以下の 4 項目があげられます．

1) カンファレンス，その他の学術集会に出席し，積極的に討論に参加することができる．
2) 専門の学術出版物や研究発表に接し，批判的吟味をすることができる．
3) 学術集会や学術出版物に，症例報告や臨床研究の結果を発表することができる．
4) 学術研究の目的または直面している症例の問題解決のため，資料の収集や文献検索を独力で行うことができる．

実施すべき学術活動

学会には積極的に参加し，症例報告や臨床研究を筆頭者として発表することが推奨されます．さらに得られた結果を論文として発表し，公に広めると共に批評を受ける姿勢を身につけます．

1) 学術参加：研修期間内に，日本外科学会定期学術集会には，1 回以上参加することが必要です．その他の学会・研究会にも積極的に参加することが推奨されます．
2) 学術発表：国内外の学術集会や学術出版物に，筆頭者として症例報告や臨床研究などの研究発表や論文発表を行い，合計 20 単位以上の獲得が必要です．

研修計画

筆頭者として学術集会で研究発表をする場合，およそ 6 ヶ月前に発表内容の抄録をオンラインで提出します．その後，査読を経て，採用不採用通知が数ヶ月前に届きます．また，筆頭著者として論文を投稿する場合も，査読を経て，採用不採用が決定されるため，投稿から掲載までには，6 ヶ月程度の時間を有することがあります．したがって，発表・投稿を予定する場合には，計画的に行う必要があります．

【研究発表の機会】

4 月　日本外科学会定期学術集会
7 月頃　日本消化器外科学会総会
9 月頃　日本呼吸器外科学会学術集会，日本小児外科学会学術集会

10 月頃　日本胸部外科学会定期学術集会，日本臨床外科外科学会総会

その他，多くの全国あるいは地方学会や研究会が開催されます.

【論文発表の機会】

邦文雑誌：日本外科学会雑誌，Surgery Today，愛媛医学など

英文雑誌：Journal of clinical oncology，Annals of surgery など

6. 外科専門医に必要なコアコンピテンシーの研修計画

外科専攻医は，将来にわたり外科専門医として外科診療を行う上で，患者中心の医療を実践するにあたり，倫理性や医療安全に基づく適切な「態度と習慣」（コンピテンシー）を，臨床の現場から学び続け，以下の項目について日々の診療の中で身につける必要があります.

1) 保険医として，医療行為に関する法律や制度（医師法・医療法，健康保険法，国民健康保険法，老人保健法，健康保険制度など）を理解し遵守する.
2) 患者，家族から信頼されるよう，知識・技能および態度を身につけると同時に，良好なコミュニケーションと協調による連携能力を身につける.
3) 外科診療において，医学的・社会的背景を考慮しつつ，患者にとって最も適切なインフォームド・コンセントを得ることができる.
4) 関連するメディカルスタッフと共にチーム医療の一員として協調・協力し，必要であれば，チームのリーダーとして活動し診療にあたる.
5) ターミナルケアを適切に行える.
6) 医療安全の重要性を理解し事故防止に心がけ，もしも，インシデントやアクシデントが生じた際，マニュアル等に沿って的確に処置ができ，患者に説明できる.
7) 自らの診療技術，態度が後輩の模範となり，また形成的指導が実践できるように学生，初期研修医および後輩専攻医に対し，指導医と共にチーム医療の一員として教育・指導を担う.
8) すべての医療行為，患者に行った説明など，治療の経過をカルテに記載し，管理する.
9) 診断書・証明書などの書類を作成・管理する.

7. 地域医療に関する研修計画

施設群による研修

本研修プログラムでは愛媛大学病院を基幹施設とし，地域の連携施設とともに病院施設群を構成します（巻末資料参照）．専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより，多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります．これは専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効です．なぜなら，大学の研修では稀な疾患や治療困難例が中心となり common disease の経験が不十分となるからです．この点，地域の連携施設で多彩な症例を多数経験することで医師としての基本的な力を獲得します．

施設群における研修の順序，期間等については，専攻医数や専攻医の希望，研修進捗状況，各病院の状況，地域の医療体制を勘案して，どのコースに進んでも指導内容や経験症例数に不公平がないように十分配慮して，愛媛大学外科専門研修プログラム管理委員会で決定します．

地域医療の経験

地域の連携施設では，外科専門研修に必要な多くの症例を経験できると同時に，地域の医療資源や救急体制について把握し，地域の特性に応じた病診・病病連携，地域包括ケア，在宅医療などの意義について学ぶことができます．また，消化器がん患者の緩和ケアなど，ADL の低下した患者に対して，在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した診療計画の立案などを経験することもできます．また，連携施設での研修中に，過疎地域を含む地域医療の研修も可能です．

研修の指導体制と指導の質の保証

地域医療についての研修をさらに希望する場合には，研修プログラム管理委員会に相談し，追加の研修や別病院での研修が可能です．専門研修指導医が少なかったり，症例数が少ない連携施設では，基幹施設が定期的に実態を把握し、必要な助言あるいは改善案を提示します．

8. 専攻医研修ローテーション（モデル）

愛媛大学外科専門研修プログラムモデル

具体例をいくつか示します．専門研修 1 年目は，原則として大学病院で研修を行い，希望者は入局（肝胆膵・乳腺外科，心臓血管・呼吸器外科，消化管・腫瘍外科）できます．入局した場合は，当該診療科を 6 ヶ月，その他を 3 ヶ月ずつ研修します．入局しない場合は，専門研修プログラム統括責任者と相談し，研修期間を設定します．

愛媛大学外科専門研修プログラムでは，3 年間の専門研修期間中，基幹施設（愛媛大学病院）及

び連携施設で，それぞれ少なくとも 1 年及び 6 ヶ月以上の研修を行います．研修プログラムの詳細は，専攻医と専門研修プログラム統括責任者，専門研修指導医らとの話し合いで決定します．3 年間の間に地域の病院を含めた幅広い研修を行います．どのコースであっても，内容と経験症例数に偏りや不公平がないように十分配慮します．また，希望や必要に応じて，救急科や麻酔科にローテーションして研修することも可能です．

年次毎の専門研修計画

【専門研修 1 年目】

知識：外科診療に必要な基礎的知識・病態を習得します．

技能：外科診療に必要な検査・処置・手術(助手)・麻酔手技・術前術後のマネージメントを習得します．外傷領域，消化管および腹部内臓領域，乳腺領域，小児外科領域，およびそれぞれ領域の内視鏡外科の研修を行います．

態度：医の倫理や医療安全に関する基盤の知識を持ち，指導医と共に患者中心の医療を行います．

1 年目終了時，目標経験症例 150 例以上，術者 40 例以上

【専門研修 2 年目】

知識:専門研修 2 年間で専門知識，専門技能，経験症例の知識を習得します．

技能:専門研修 1 年目の研修事項をマスターした上で，不足した領域の症例経験と，低難度手術から術者としての基本的スキル修得を目指します．外傷領域，呼吸器領域，心臓・大血管，末梢血管領域，頭頸部・体表・内分泌外科領域，およびそれぞれ領域の内視鏡外科の研修を行います(順不同)．

学問:経験した症例の学会発表を行う基本的能力を身に付けます．

態度:医の倫理や医療安全を習得し，プロフェッショナリズムに基づく医療を実践します．

2 年目終了時，目標経験症例 300 例以上，術者 100 例以上

【専門研修 3 年目以降】

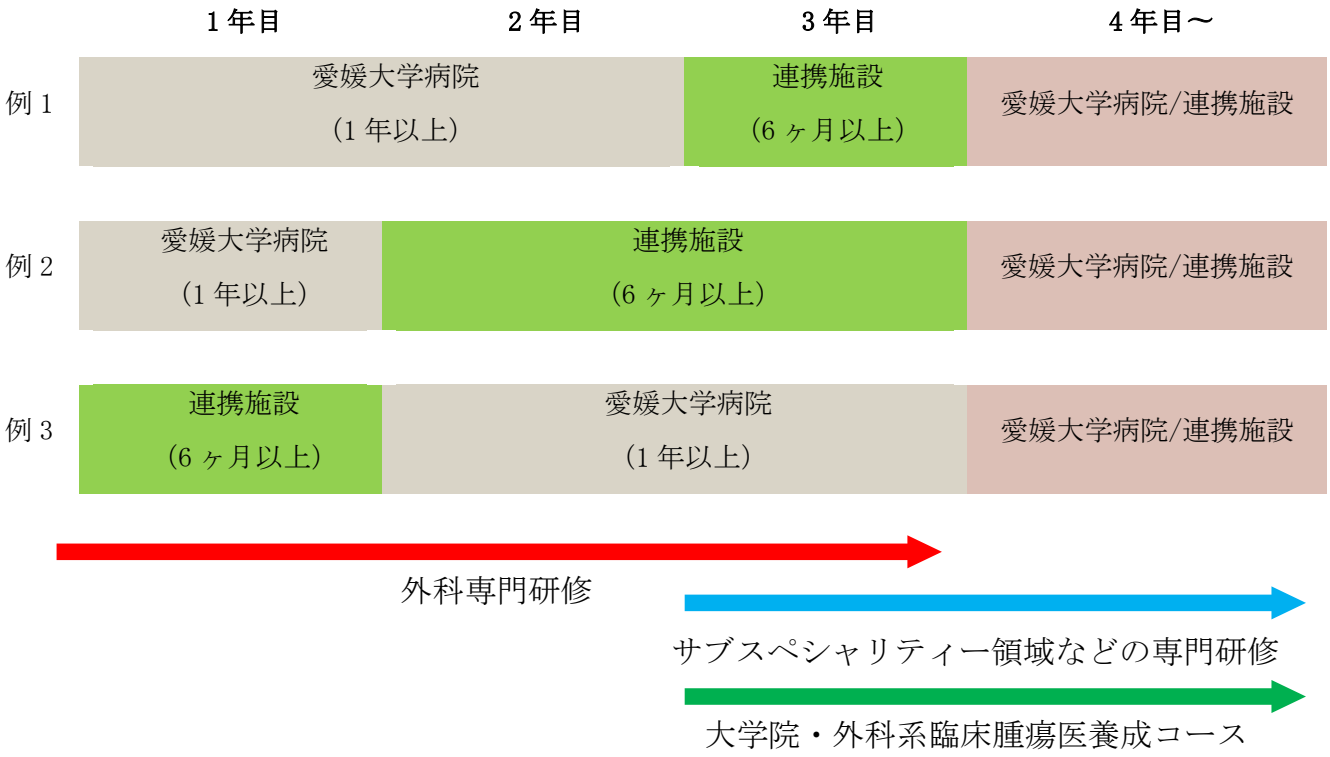
知識:サブスペシャルティまたはそれに準じた外科関連領域の基盤となる外科領域全般の専門知識，専門技能，経験症例の知識を習得します．

技能:専門研修 2 年間で修得できなかった領域の修得を目指す. 専門研修 2 年間の研修事項をマスターした上で，より高度な技術を要するサブスペシャルティ(一般・消化器外科，心臓・血管外科，呼吸器外科，小児外科)またはそれに準じた外科関連領域の研修を進めます．

学問:学会発表・論文執筆の基本的知識を身に付けます．

態度:倫理感に根ざした患者中心の安全な医療を実践し，研修医や学生のロールモデルとなります．

最終経験症例 350 例以上，術者 120 例以上，学術発表 20 単位以上など



9. 専攻医の評価時期と方法

研修途中の評価時期と方法

研修途中の評価は「施設評価」または「年次評価」として，専攻医と専門研修指導医が相互評価を行います．「施設評価」は現在研修中の施設から他施設へと異動する際に，「年次評価」は自身の 4 月から翌年 3 月までの 1 年間の研修状況について毎年 3 月に，まず専攻医が研修状況の自己評価を登録し，その後，当時在籍していた施設の専門研修指導医が評価を登録します．

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです．これは，専攻医の研修内容の改善を目的として，研修中の不足部分を明らかにしフィードバックするため随時行われる形成的評価です．

【評価登録の方法】

① 日本外科学会のホームページから，各種資格＞新専門医制度＞新規申請＞研修実績管理システム（専攻医向け）にログインします．

② 異動時であれば「施設評価登録」を，年度末であれば「年次評価登録」を行います．

③ その後，専攻医は，担当の専門研修指導医に評価を依頼し，登録していもらいます．

④ さらに，本プログラムでは，他職種評価として，専門研修指導医が，専攻医の研修評価を連携する医療スタッフから確認し，研修実績管理システムに入力します．

⑤ 登録状況を，研修実績管理システムにて確認します．

研修の修了判定について

専攻医は，修了要件を満たし３年目の年次評価の登録が完了した時点で，愛媛大学外科専門研修プログラム管理委員会による総括的評価として審査を受けることになります．審査内容は，知識，病態生理の理解度，手術・処置手技の到達度，学術業績，プロフェッショナルとしての態度と社会性などについてです．他職種（看護師・技師など）のメディカルスタッフの意見も取り入れられます．

この審査を参照に，最終的にプログラム統括責任者が専門研修の修了の可否について判定（修了判定，といいます）を行います．一方で，所定の専門研修期間を修了したものの，所定の手術経験や業績を満たしていない場合は，どの程度の期間，研修を延長するかについて，プログラム統括責任者が判断し，延長の登録を行います．専攻医は，延長された期間について追加の研修を行い，あらためてプログラム統括責任者から修了判定を受けることになります．

10. 専門研修管理委員会の運営計画

基幹施設である愛媛大学病院に，専門研修プログラム統括責任者と連携施設の専門研修プログラム担当者等で構成される研修プログラム管理委員会を置きます．

研修プログラム管理委員会の役割は，専攻医および専門研修プログラム全般の管理，研修プログラムの継続的改良，および専攻医の修了判定の審査を行うことです．研修プログラム管理委員会は，年に１回開催します．

愛媛大学外科専門研修プログラム管理委員会は，専門研修プログラム統括責任者，事務局代表者，外科の６つの専門分野（消化器外科，肝臓・胆のう・膵臓・移植外科，心臓血管外科，呼吸器外科，小児外科，乳腺外科）における専門研修プログラム統括責任者の業務補佐，および連携施設担当者などで構成されます．

11. 専門研修指導医の研修計画

専門研修指導医は，定期的に学術集会や指導者講習会等に参加し，研鑽と自己学習に努め，基礎的あるいは臨床的研究成果を学び，適切に専攻医を指導できるよう対応していきます．研修プログラム委員会においても，専攻医からの指導医評価をもとに専門研修指導医の教育能力を向上させる支援を行います．

12. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）について

1) 専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努めます.
2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘルスに配慮します.
3) 専攻医の勤務時間，当直，給与，休日は労働基準法に準じて各専門研修基幹施設，各専門研修連携施設の施設規定に準じます.
4) 妊娠・出産・育児・傷病そのたの正当な理由による長期の休暇に関して，専門研修プログラム整備基準に基づいて取得できるようにし，女性勤務医師のライフワークに配慮します.

13. 専門研修プログラムの改善方法

専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

毎年，専攻医は「専攻医による評価(指導医)」に指導医の評価を，さらに「専攻医による評価(専門研修プログラム)」に専門研修プログラムの評価を記載して研修プログラム統括責任者に提出して下さい．研修プログラム統括責任者は指導医や専門研修プログラムに対する評価で専攻医が不利益を被ることがないことを保証します.

専攻医等からの評価(フィードバック)をシステム改善につなげるプロセス

専門研修指導医および専門研修プログラムの評価を記載した「専攻医による評価」は研修プログラム統括責任者に提出されます．研修プログラム統括責任者は報告内容を匿名化し，研修プログラム管理委員会で審議を行い，プログラムの改善を行います．些細な問題はプログラム内で処理しますが，重大な問題に関しては外科研修委員会にその評価を委託します.研修プログラム管理委員会では専攻医からの指導医評価報告をもとに指導医の教育能力を向上させる支援を行います.専攻医は研修プログラム統括責任者または研修プログラム委員会に報告できない事例(パワーハラスメントなど)について，外科領域研修委員会に直接申し出ることができます.

研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

ブログラム運営に対する外部からの監査・調査には真摯に対応します.

巻末資料：愛媛大学外科専門研修プログラムの施設群（2022 年 5 月）

	名称	都道府県	1. 消化器外科　2. 心臓血管外科　3. 呼吸器外科 4. 小児外科　5. 乳腺・内分泌外科 6. その他	
	専門研修基幹施設			**統括責任者**
	愛媛大学医学部附属病院	愛媛県	1, 2, 3, 4, 5	高田　泰次
	専門研修連携施設			**連携施設担当者**
1	愛媛県立中央病院	愛媛県	1, 2, 3, 4, 5	大谷　広美
2	松山赤十字病院	同上	1, 3, 4, 5, 6	南　一仁
3	市立宇和島病院	同上	1, 2, 3, 5, 6	中村　太郎
4	四国がんセンター	同上	1, 3, 5	羽藤　慎二
5	松山市民病院	同上	1, 2, 3, 5, 6	加賀城　安
6	済生会松山病院	同上	1, 5, 6	高井　昭洋
7	済生会今治病院	同上	1, 3	松野　剛
8	愛媛県立今治病院	同上	1, 5, 6	高月　秀典
9	愛媛県立新居浜病院	同上	1, 2	堀内　淳
10	十全総合病院	同上	1, 3, 5, 6	太田　和美
11	愛媛労災病院	同上	1, 3, 5, 6	八木　隆治
12	済生会西条病院	同上	1, 2, 3, 4, 5, 6	石井　博
13	西条中央病院	同上	1, 5, 6	小野　仁志
14	市立大洲病院	同上	1	李　俊尚
15	西予市立市民病院	同上	1, 5, 6	末光　浩也
16	南松山病院	同上	1	児島　洋
17	ミネルワ会渡辺病院	同上	1	松本　欣也
18	今治第一病院	同上	1, 5	曽我部　仁史
19	HITO 病院	同上	1, 6	石川　沙希
20	愛媛医療センター	同上	1, 3	鈴木　秀明
21	住友別子病院	同上	1, 3, 5, 6	中川　和彦
22	JCHO 宇和島病院	同上	1, 5	山口　真由美
23	四国中央病院	同上	1, 2, 4, 5, 6	松山　和男
24	興生総合病院	広島県	1, 2, 5, 6	八島　暁英

25	総合病院回生病院	香川県	1, 2, 3, 5, 6	粂 沙余

施設群の紹介

基幹施設:愛媛大学医学部附属病院

消化器外科

いわゆるメジャー外科であり、ヘルニアや虫垂炎，炎症性腸疾患などの良性疾患から，胃・大腸・食道癌などの悪性疾患まで幅広く扱うのが当科の特徴です．術式についても，腹腔鏡下，胸腔鏡下手術やロボット支援手術を積極的に行っており，機能を温存した縮小手術から，根治性を目指した他臓器合併切除をともなう拡大手術まで，腹腔鏡・開腹を問わず、様々な術式が経験できます．また，化学療法も積極的に行っており，消化器癌の化学療法についても数多く経験することができます．

外科医としての最初のステップである外科専門医取得をめざす際，最も重要なのはしっかりした考え方と技術を学べる環境を選ぶことだと思います．愛媛大学は医学生教育や研修医教育の取り組みを文科省からも高く評価されており，専門医教育にもその恵まれた環境を提供することが可能です．

また，希望者は勤務時間外に，県下に多数ある当科の関連病院の２次救急外来を担当し，救急疾患への対応を身につけることも可能です．

当科の基本的な方針としては，

1. ヘルニア修復術や，腸閉塞症手術，消化管穿孔などの良性疾患に対する手術や，開腹での胃切除，大腸切除術などのメジャーな手術の術者を経験することで，助手の経験だけでは得られない外科医としての基本を学びます．
2. 技術認定医の指導の下，腹腔鏡による胃局所切除術，胃空腸バイパス術，S 状結腸切除術などの基本的な腹腔鏡手術の術者を経験し，また，高難度腹腔鏡手術の助手を経験することで腹腔鏡手術の研鑽を積みます．
3. 病棟での化学療法患者を実際に担当し，化学療法に対する理解を深めます．
4. 臨床外では，大学が保有する手術シミュレータや，アニマルラボ，カダバーサージカルトレーニングを利用し，実際に役立つトレーニングが充分に受けられます．

肝臓・胆のう・膵臓・移植外科

当科は，肝胆膵脾領域の良・悪性疾患に対する外科診療を行います．悪性疾患では，進行癌に対するNAC や血行再建を伴う拡大手術を積極的に行う一方，腹腔鏡下肝切除術や，2020 年度からはダ・ヴィンチによるロボット下膵切除術などの低侵襲手術も専門的に行います．良性疾患では，腹腔鏡下手術の基本である胆嚢摘出術やヘルニア修復術，巨脾症例などに対する脾臓摘出術なども行います．さらに，四国で唯一の脳死肝移植施設の認定を受けており，年間 6～7 例のペースで末期肝疾患に対する脳死及び生体肝移植手術を行います．これらのダイナミックかつ繊細な肝胆膵外科領域の手術を経験すると同時に，緻密な周術期管理を習得できます．

心臓血管外科

先天性心疾患，後天性心疾患，大動脈疾患，末梢血管疾患に対する外科治療を主に行っています．新生児を含む小児から成人，高齢者まで，あらゆる年齢の患者に対応できる数少ない施設の一つです．また，小児を含む重症心不全に対して補助人工心臓治療を行う中国・四国唯一の施設です．外科専門医の取得に必要な手術経験だけでなく，術前術後の呼吸・循環・全身管理を経験することで，外科医としての自信につながる研修ができます．

呼吸器外科

当科の特徴としては，ロボット補助胸腔鏡下手術および単孔式胸腔鏡下手術，さらには区域切除術など，低侵襲手術を積極的に行っていること，また拡大手術・集学的治療についても多くの症例を有していることがあげられる．2017 年 1 年間に施行した全身麻酔下手術は 228 例，うち原発性肺癌手術は 106 例で，そのうち胸腔鏡下手術（ロボット補助を含む）が全体の 82.4%を占めています．また研修医にはほとんどの手術に参加していただき研修を行いますが，学会発表や論文作成も積極的に行うカリキュラムとなっていることが特徴です．

小児外科

外科専門医の取得には 10 例以上の小児（原則として 16 歳未満）のヘルニア（鼠径ヘルニア・臍ヘルニアなど），陰嚢水腫・停留精巣・包茎，腸重積，虫垂炎の症例経験が必須であり，愛媛大学小児外科ではこれらの疾患が年間約 100 例ありますので，愛媛大学外科での研修で充分に経験可能です．また，日本外科学会，日本小児外科学会とそれぞれの地方会での発表も積極的に行っており，専門医取得に必要な学会発表や論文作成を丁寧にサポートします．さらに、サブスペシャリティーとしての小児外科専門医をめざす場合には，充分な症例経験が得られるように配慮します．

乳腺外科

乳腺専門医の指導のもと，画像診断や針生検などの治療前診断から手術治療，薬物治療など乳腺診療の全般を学んでいただきます．主治医団に加わり術前の症例検討を行い，術者あるいは助手として手術に参加していただきます．良性腫瘍に対する乳腺腫瘤摘出術，乳癌に対する乳房温存手術，乳房切除術，センチネルリンパ節生検（RI 法），腋窩郭清術のほか，形成外科との共同診療により乳房再建術（自家組織，人工物）を経験することができます．

連携施設群

愛媛県立中央病院

県民の安心の拠り所となる病院」を基本理念に，がん診療，救命救急，周産期母子，災害医療など多くの使命を担っています．当院消化器外科では上部・下部消化管．肝胆膵の3グループに分かれ，専門性の高いチーム医療や研修・教育体制を整備しています．

松山赤十字病院

当院は 1913 年に開院した愛媛県の基幹病院です．約 1,500 名の職員（うち医師は約 200 名）が勤務し，年間約 6,800 件の手術を行っています．年間約 5,000 件の救急車を受け入れており，多くの待機手術とともに，急患手術も手厚い指導のもとに学べます．

市立宇和島病院

当院は愛媛県南予に立地しており，宇和島医療圏における中核病院として位置付けられています．外科医局は一つにまとまっており，外科の年間手術数は 1,000 件を越えているため，外科専攻医は多種多様な手術を執刀，経験可能であり，豊富な臨床経験を積むことが出来ます．

四国がんセンター

外科では消化管，肝胆膵，呼吸器，乳腺の悪性腫瘍が主な対象疾患で，指導医と共に担当医として手術・周術期管理に当たる．年間約 1,000 例の手術をこなしており，2 年間で 400 例以上の手術に参加し外科専門医の取得に必要な大半の症例が経験できる．

松山市民病院

初期臨床研修から一貫して，診療実績を重視し，国民に理解される透明性のある充実した専門研修を目指します．消化器外科，呼吸器外科，心臓血管外科は縦横の連携が密で，専攻医が外科医としての標準的なスキルとウィルを獲得し，患者さん中心のチーム医療を実践できるように一丸となって取り組んでいきます．

済生会松山病院

消化器外科を中心に乳腺，呼吸器など幅広く一般外科手術を行っており，積極的に鏡視下手術も行っています．救急では基本的な外傷外科，救急外科疾患を多く経験できます．悪性疾患に対しては化学療法，緩和治療も行っています．

済生会今治病院

当院は 191 床の病院で，外科・呼吸器外科の専門医がそろい，病床数は合わせて 43 床です．今治医療圏唯一の地域がん診療拠点病院であり，がんの手術症例が多く，がんの診断から緩和ケアまでの診療体制が整備されています．また，外科救急の中心的な病院であり緊急手術も多く経験できます．研修医が最初に執刀する虫垂炎，鼡径ヘルニア，下肢静脈瘤などの症例数も多く，外科専門医の取得には最適な研修病院です．

愛媛県立今治病院

愛媛県立新居浜病院

愛媛県立新居浜病院は，東予救命センター，周産期母子センターを併設した東予地区の中核病院です．消化器外科を中心に，外傷や腹膜炎などの救急疾患から，癌に対する腹腔鏡下手術や化学療法，緩和医療など，幅広く担当しています．

十全総合病院

当院は新居浜市において地域に密着した医療機能を発揮しています．外科では各種疾患の診断・治療（手術手技や周術期管理）を習得し症例を経験することが出来ます．特に内視鏡手術を積極的に行っており，技量の向上に努めましょう．

愛媛労災病院

新居浜市東部にあるのどかな環境の病院です．その中で①血管外科②一般外科の経験を積んでいただきます．やる気のある研修医には院長を中心に病院全体で十分サポートさせていただきます．

済生会西条病院

手術症例数としては多くありませんが，小外科から消化器，呼吸器，小児，血管外科症例の手術およびがん症例における化学療法と麻酔，透析，集中治療，救急診療のみならず，内視鏡検査や血管造影検査など全般に渡って研修が可能です．また心臓血管外科領域のペースメーカー挿入に関しても循環器科の協力を得て単位取得可能です．3 年間で 500 例の取得が可能となりますので是非研修にお越しください．

西条中央病院

西条中央病院は，2015 年に新病院が完成した快適な研修施設です．外科専門医・消化器外科専門医関連施設，乳がん学会関連施設の認定を受けており，消化器外科や乳腺・甲状腺外科の診断治療と外科救急研修ができます．

市立大洲病院

当院は大洲市の中核病院として地域医療を担い，外科医 2 名，麻酔科医 1 名の体制ですが，胆石症・ヘルニア・虫垂炎手術はほぼ全例，胃・大腸手術も可及的に腹腔鏡下に行っています（昨年の手術件数 111 例中，腹腔鏡下手術は 69 例）．消化器内科も充実しており専門研修連携施設としても十分な環境にあり，宜しくお願いします．

西予市立西予市民病院

西予市の地域医療を担う 154 床の中核病院です．外科専門研修指導医 3 名が勤務し，外科診療に必要な基礎知識・病態・検査・処置などを学び，臨床応用できるよう研修し，また医療・保健・福祉等との地域連携など地域医療の研修を行います．

南松山病院

平成 26 年に新病棟になり一般病棟の他に療養病棟，人工透析センターも併設しています．外科系では一般診療や縫合，処置などの手技に加え，胃癌や大腸癌に対しては腹腔鏡手術も行っており，広く一般外科が研修できると思います．

ミネルワ会渡辺病院

当院は日本大腸肛門病学会の認定施設であり，肛門疾患を中心とした大腸肛門疾患について，診断から治療まで研修できる施設となっております．

今治第一病院

当院は，ベッド 90 床，急性期医療を提供する2次救急病院です．様々な診療科を有し，地域住民に質の高い医療を提供するため日々努めています．特に研修プログラムの消化器外科，乳腺外科の症例に対し手術，検査など様々な経験と学習が習得可能です．

HITO 病院

HITO 病院は，24 時間 365 日対応の救急病院として年間 1,700 件の救急を受け入れております．内科との「消化器カンファレンス」，悪性疾患の「キャンサーボード」は週 1 回開催され広く学ぶことができます．また，緩和ケア，回復期リハ，地域包括ケア病棟を有し，超急性期から回復期まで幅広く経験を積むことが可能です．

愛媛医療センター

結核・重症心身障害・神経難病の診療を特徴とする愛媛医療センターは愛媛県東温市に位置します．当院外科では高齢者に優しく，救急疾患に繊細に対応し，地域医療に貢献する一般消化器外科・呼吸器外科の診療を行います．

住友別子病院

東予の中核病院で，がん診療拠点病院でありながら地域の一般・救急医療をまかなっていることが特徴です．各科の助け合いの精神が強いので，いろいろな助言をもらいながら外科研修ができます．一緒に働きましょう！

JCHO　宇和島病院

JCHO宇和島病院は独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO：ジェイコー）が運営する病院で，系列の病院が全国に 57 あります．地方の中規模病院での外科では大規模病院にはないアットホームな雰囲気の中，実践の場で経験を積むことができます．

四国中央病院

当病院は，公立学校共済組合直営病院で，四国中央市には昭和34年に開設され，現在23診療科，病床数 275 床に至りました．当科は消化器外科を始め，心血管外科，乳腺外科，小児外科に加え，呼吸器外科さらには透析など幅広く研修を行っています．

興生総合病院

消化器外科・救急外科を主体とした一般外科の研修を行っています．NCD 登録症例は 250 件/年程度ですが，全領域の外科研修が可能です．常勤外科専門医 6 人により検査～基本手技・手術まで手厚い指導を行います．

回生病院

当院では，消化器疾患・呼吸器疾患・乳腺甲状腺疾患・血管疾患を扱っています．手術件数は 250 件/年で，約 200 件が全身麻酔手術（消化器外科関連疾患は約 160 件，腹腔鏡手術は約 130 件）になります．
日々の多忙な業務に追われることなく，じっくりと症例を学ぶことが可能で，常勤専門医 5 名で丁寧に指導いたします．麻酔科医・病理医も常勤で，救急対応や病理検討・CPC なども充実しています．平成 19 年に新病院となり，HCU・手術室 7 室・屋上ヘリポート完備で地域の中核病院として質の高い急性期医療を提供しています．また、災害拠点病院として有事には県内で重要な病院であり，DMAT としての活動にも力を入れています．